

今週の課題	GENIUS, OXFORD, 研究社, 他参照
<p>●151</p> <p>日本語の「ア」と「オ」にならぬよう</p> <p>1) スペルの a (A) ストレスがある時の音 (B) ストレスがない時の音</p> <p>2) スペルの o (A) ストレスがある時の音 (B) ストレスがない時の音</p>	<p>●以下は大体の目安です。スペルによって異なりますが、ある程度自分で判断できる目安になると思います。</p> <p>*曖昧母音は[*]で表示しています *dogの場合の母音は[A]で表示しています</p> <p>1) スペルの a (A) ae / ei (B) * / 時にaeのこともある</p> <p>2) スペルの o (A) A (あくびのア) / ou (B) * / ou</p> <p>●では以下を発音して見ましょう *注意：まずはどこにストレスがくるか確かめましょう</p> <p>ally / apply / accept / academic / drafting / baron / cabinet constitution / contribution / control / occupation / respond / October / proposal / cooperation / Potsdam</p>
<p>●150</p> <p>よく使うこの単語の発音はどうでしょう</p> <p>1) necessary 2) temporary 3) vocabulary</p> <p>どの母音がスペルにつられてどう発音しがちでしょうか？</p>	<p>●-aryで終わる単語は[アリ]ではなく[エリ]でしたね。今の教材で確認したのは militaryでしたが、他にもいっぱいありますね。</p> <p>dictionary / legendary / secretary / imaginary</p> <p>●ただし、ストレスの位置も発音には関係しているようです。(曖昧母音は[*]で表示しています)</p> <p>A) ストレスが -aryにくると[エリ]になる NEceSSAry / TEmpoRAry / voCAbuLAry</p> <p>B) ストレスが -aryにこないと[*リ]になる EleMEntary / qLOssary / DOcuMEntary</p>
<p>●149</p> <p>句のリズム</p> <p>1) as means of 2) in order to 3) as well as</p> <p>それぞれ一語の長い単語と思って強弱をつけて発音しましょう</p>	<p>●句も長い単語(下段148)の強弱と同じルール(曖昧母音は[*]で表示しています)</p> <p>1) as means of : meansの語頭の MEAnsが<b>ストレス</b>部。よってその前後の母音が聞こえにくい[*]になります。そしてmeansのsとofがリエゾンして<b>ゾブ</b>に聞こえる。よって「*ズミンズブ」のように聞こえるので、そのように発音しましょう。</p> <p>2) in order to : orderの語頭のORderが<b>ストレス</b>部。そしてinとorderがリエゾンして、しかもinの[i]が聞こえにくくなるので<b>ノーダー</b>ぽく聞こえる。全体として「*ノーダートゥ」と聞こえるように発音練習しましょう。</p> <p>3) as well as : wellのWEllが<b>ストレス</b>部。asの[a]が聞こえにくく、後ろのwellとasがリエゾンし、全体として「*ズウェラズ」と聞こえる。そのように発音しましょう。</p> <p>●聞こえるように「自分の発音を変える」ことが重要です。そうすると自分の音のイメージと、耳に入ってくる英語の音が合致するようになります。</p>

<p>●148</p> <p>絶対に正しい発音をマスターする3単語</p> <p>1) international 2) constitution 3) recognize</p> <p>今期が終了するまでに、この3つの単語だけは、無意識で正しいリズムと強弱で発音できるようにしよう</p> <p>●さて、注意する点は何ですか？ 右の欄を見ずに、まずはノートに書いてみてください</p>	<p>●長い単語へのアプローチ</p> <p>(A) 2分割する。例：inter + national (B) 「強」のシラブルを見つけ (C) 「強」の箇所をたっぷり長めに発音 (D) 「強」の直後に一気に力を抜く</p> <p>●「強」の注意点</p> <p>(E) 日本語のイメージより顎を落とし、口を大きく開ける (F) constitutionの場合、coにストレスがあるが、[k]と[o]が合体した日本語の[コ]にならぬよう注意(クラスで練習します)</p> <p>●「弱」の注意点</p> <p>(G) 一気に力を抜いてクラスで練習した口の形で[ウ]的な曖昧母音にすると英語らしくなる。recognizeの場合、[rE]のあと[コグ]にせずに[クグ]にする。</p>
<p>●147</p> <p>リズムの強弱の「弱」が結構難しい 特にカタカナになっている英語は要注意 ジャパン、エコノミーで練習してみよう</p> <p>1)まずは日本語的に発音してみる 2)強の前後の「弱」を意識して発音</p> <p>練習は録音すると近道です</p>	<p>●日本のストレスは[PA]でエコノミーは[CO]ですね。その前後を曖昧母音にする。曖昧母音の作り方は： *完全に力を抜く。上下の奥歯は1/2mm開け、舌も唇も一切動かさずに「アイウエオ」と言ってみる。アイウエオの特徴が消え、全部同じような音になったら大成功。</p> <p>では、Japanとeconomyを発音してみましょう。 1)Ja+PA<sub>n</sub> →力を入れずにJa、そして帯気音の[p]を力強く。 2)e+CO+nomy →力を入れずにe、帯気音の[k]を力強く、そして次のnoを一気に力を抜いて[ノ]の音色を消す。これが難しいね。</p> <p>カタカナで書くとこんな感じ。 1)口を丸めず [ジュ]、そして腹から[p]音を出して[パヤー<sub>n</sub>] *ジュパヤー<sub>n</sub> 2)力抜いて[エ]のような[ウ]のような音[e]を出し、次に腹から[k]音を出して[カッ]、最後に一気に力を抜いて[ヌミー] *ウカッヌミー</p>
<p>●146</p> <p>リンキング(=リエゾン)練習 今週も右欄を見る前にまず自分でやってね。</p> <p>1)and an important US ally</p> <p>(A)一般論：リンキングはどんな時に起こる？</p> <p>(B)上記のリンキング箇所をペンで結び、音がどう変化するか記入しましょう</p>	<p>(A)リンキング起こる単語の組み合わせは： an(子音で終わる単語) + important (母音で始まる単語)の時に起こります。</p> <p>(B) <u>an</u>important    <u>im</u>portant <u>US</u>ally            サライ (アライがサライに聞こえる)</p> <p>語末の[d][t]は舌先を歯茎の裏につけるだけで発声しないのでandの場合は、Nの発音[en]になると学びました。 ということは、and anはan anになるので an(d) an importantは エナニimportant になりますね。</p> <p>*ちなみにUSの発音は[ju:es]で母音で始まる単語ではないけれど、nativesは一息で発音するのでリンキングが起こっても不思議ではないですね。つまり、 important <u>US</u>はテューエス (important→[tnt]と発音)</p> <p>●よってand an important US allyは エナ ニmportn テューエ サライ と音が変わります。 トカゲの尻尾切りで、単語の最後の音は、次の単語の最初に持ってくると自然な発音になります。</p>

<p>●145</p> <p>メリハリは個々の単語の発音から始めよう 特に「長い単語」はカタカナ英語になりがち。 以下をストレスに注意して正しく発音してみよう。</p> <p>1)インターナショナル international 2)コンスティテューション constitution 3)コロナイズ colonize 4)ミリタリスティック militaristic</p>	<p>●「長い単語」はストレスが2箇所。 パターンは「<b>強弱強弱</b>」か「<b>弱強弱強</b>」</p> <p>1)Inter+national (最後のnalはナルではなくノルぽい) 2)Consti+tution (最後のtionはションではなくシャンぽい) 3)Colo+nize 4)milita+ristic</p>
<p>●144 (2024年1月)</p> <p>今年の1番目のポイント：メリハリ</p> <p>たとえ正しい英文でも、日本語のようなトーン(落ち着いたトーン)で英語を話すと、9割の確率で聞き返される。 同じ文でも抑揚をつけて喋ると一発で伝わる。</p> <p>これは海外駐在中のクラスメートの経験でした。つまり、発話ではメリハリがないと、<u>たとえ英文が正しくとも</u>、聞き手は『?』となる。</p> <p>だとすると、<u>一体、意味を伝えるのは何なのか?</u> 面白い命題ですね。考えを深めていきましょう。</p> <p>さて、今年のNELではメリハリ英語を心がけ、リピート・英語戻し・スピーチ練習を行います。まずは3月末を一つのゴールとしてやってみよう!</p>	<p>●あなたの経験も教えてください</p> <p>去年は左記とは異なるクラスメートが、[ae]音がnativesに通じなかったという経験をシェアしてくれました。(143参照)</p> <p>発音に関するあなたの経験も教えてください。</p> <p>●Article 9 (リスニング)</p> <p>この教材、ちょっと聴き取りにくい。こちらリスニング力はさておき、彼のどの音(単語)が聴き取り難かったでしょうか?</p> <p>この教材の発音の特徴を、来週議論したいと思います。</p>
<p>●143</p> <p>Pure [ae]次に鼻音[m/n]がきた時</p> <p>1)Sam 2) ban をどう発音する?</p> <p>鼻音がくるとどう発音するとRachelは言っていた?</p> <p>ビックリでした。</p>	<p>●曖昧母音は[*]を使います</p> <p>●Pure [ae]の二重母音的発音に加え、[m/n]音に移行する際に、舌の後側力を抜いて[*]をだす。 つまり、[ae]音の後に[*ム]または[*ン]と発音する。 1)Saaaa+m : [sae]に続けて[*ム]を発音する 2) baaaa+n : [bae]に続けて[*ン]を発音する どうも、門外漢の印象からすると「渡音」みたいな感じがするUSの場合、[ju:]から[es]に移る時、[ju:]で唇を丸く突き出し、そこから[es]に移行すると、[w]音が自然と入るので： ユーウエスのような。今回はそれとは同じではないけど、[ae]の後に余分な曖昧母音[*]を入れて[*ム]とか[*ヌ]を続けて言う。だから、二重母音+[*]で三重母音ぽくなる。ビックリ。</p>
<p>●142</p> <p>Pure [ae]の発音とModified [ae]の発音</p> <p>1)sat, 2) backtrack...どう発音する?</p> <p>Rachelの説明を聞くと、私たちの発音はModified版のフラットで短く、弱い[ae]みたいです。どうも顎と口角の位置が中途半端らしい。では、ストレスが置かれたPure [ae]はどう発音すると彼女は言っていましたか?</p>	<p>●Pure [ae]の発音： まるで二重母音[diphthong]みたいに音が変化する。</p> <p>A) Modified版の位置でまず[ae]音を出す。舌先は下の歯の裏、舌の奥はせり上がり、舌を平らに広げる。[ae]と言いながら： B) 顎をさらに下げ、口角を後ろ+上に引きあげ[ae]音を出し続けると、ピッチが上から下へ下がり(つまりフラットではなくなり)音も長く、力強い。</p> <p>1)Saaaat. 2) baaaacktrack [trackはmodified版]</p>

<p>●141</p> <p>1) It's just talking about <b>ンネクス</b>remely disturbing way.と聞こえた。</p> <p>ここまで聞こえたらパズルは埋められる。</p>	<p>●ヒント：</p> <p>(A)前置詞の後ろには必ず名詞。我々を困らせるあの代名詞はしっかり発音されない。</p> <p>(B) wayを辞書で確かめると、<b>ンネ</b>のあたりが見えてくる。wayが好む前置詞です。それがリンクしています。</p>
<p>●140</p> <p>1) It gave you <b>アンニアフル</b>. と聞こえた</p> <p>どこでどうリエゾンしている？</p>	<p>●<b>アン</b>は an かも。そしてanの[n]が<b>次の音</b>とリエゾンしてアンニの<b>ニ</b>が：</p> <p>→<b>ニ</b> = n+[<b>イ</b>]、つまり、アンニは an+[<b>イ</b>]だとすると、ニアフルではなく：It gave you <b>an イ</b>ヤフル。</p> <p>そしてSiriにWhat does "イヤful" mean? と聞いてみたら.... (答えはクラスで確認。意味は以下の通り)</p> <p>*頼みもしないのに聞かされる情報、 耳にタコができるほどの小言、大目玉、忠告 a prolonged and angry reprimand</p>
<p>●139</p> <p>1)<b>W</b>...giving up happiness-producing activities</p> <p><b>ウツ</b>しか聞こえない。</p>	<p>●紙を見ずに音声だけ聴くと、<b>ウツ</b>しか聞こえない。</p> <p>練習するときwhileとはっきり聴こえるように発音せず、オリジナルの音声に近づけて発音しましょう。</p> <p>音声はSTUDIO NELにアップしています。講師にとって whileは曲者で、whenとかwellと同じように聴こえることが多いです。</p>
<p>●138</p> <p>1)which is the <b>ding</b> instantiation of GPT4 どちらかと言うと「<b>デング</b>」に聞こえた。 みんなにはどう聴こえましたか？</p>	<p>●Sydneyの開発者はOpenAIではなくMicrosoftです。</p> <p>現時点ではまだnative チェックはしていないので、確信的には言えませんが、Microsoftの検索エンジン名ではないかと思います。</p>
<p>●137</p> <p>1) The <b>fault</b> assumption would be that ~. Nativeの耳にもこのように聞こえるそうです。 しかし、the <b>xxfault</b> assumptionという意味だろうと即時に正しく修正しました。</p> <p>ヒント</p> <p>*the standard expectation for something or someoneと言う意味</p> <p>*アクセントのない第一音節の所に聴こえない音がある。その音の直前にtheがあるので、それによく似た音とassumeしてもいいかも。</p>	<p>1)解答は10月22日の「使える成句」にあります。</p>
<p>●136 期初テスト：ディクテーション 難しかった箇所→こう聴こえた</p> <p>1)He is the thing. 2)ウツ we need....internal representation.... 3)playing a cause of role / cause a role 4) in generating/generational behavior</p>	<p>●曖昧母音は[*]を使います</p> <p>次に遭遇した時に正しく聴き取るための練習</p> <p>1)Here's the thing. (A)[he is]と[here is]の両方を同じように聴こえるよう発音。 (B)彼は英国人なので hereの [re]は[*]にしてみよう。</p> <p>2)What we mean is that there're (A)whatの[t]は聴こえないように発音。 (B)mとnは同じに聴こえると思って発音。 (C)there'reは非常に聴き取りにくい。一息でさっと言う。</p> <p>3)playing a causal role (A)playing [ing]の[g]は今回は発音されているので[ng]のままにしながら直後の冠詞のaをリエゾンさせて[ng*]。 (B)causalは[ザル]ではなく[ゾル]。しかもfeelの[L]音と同様ローマ字発音の[ル]ではないので[ゾオ]的な感じ。</p> <p>4)in generation of behavior (A)ofの[v]はbehaviorに吸収される。 (B)ジェネレーションノ [v]behaviorと発音してみよう。</p>

2023年秋期 一口英語コーナー 131~151

<p>●135 LLM2_1 以下のように聴き取れた：</p> <p>1) <b>Can be</b> that!          キャンビィと聴こえた。          あるいは全然耳に残らなかった。          クラスで確認した通り「語末で発音されない音」の代表[t]音を<b>思いつかなかった</b>のが原因でした。</p>	<p>1)正解は： Can't beat that!</p> <p>答えを見れば「なーんだ」というほど簡単な単語。しかも自分がよく使っている単語。なぜ聴こえなかったんだろう。悔しい！次のリスニングで<b>聴こえない語末の[t]音</b>を脳みそに思い出ししてもらうためにも「音取り注意リスト」に書き、なぜ今回思いつかなかったか分析しておこう。</p>
<p>●134 LLM1_7 以下のように聴き取れた：</p> <p>1)The <b>reason</b> anywhere フォー<b>リ</b>ッ to think.          ヒント：          (A) reasonの[r]音は前の単語の尻尾部          The+r イズン          (B) フォーリッの[リ]が境界線で2つの単語          [リッ]の[r]音は1つ目の単語の尻尾部          [リ]=[r]+[イ]</p>	<p>(A) There isn't 尻尾の[t]は発音されない          (B) for it 尻尾の[t]は発音されず、次のtoに吸収される          1) There isn't anywhere for it to think.</p> <p>●対策「ラリルレロ」で始まる単語に聴こえるが、それだと意味が通じない時          Another route is temporarily limiting <b>or even</b> giving up our          ここをリミティン ノア <b>リー</b>ヴンと発音して脳みそに[r]音で始まる単語に聴こえた時の手助けをしよう</p>
<p>●133 LLM1_7 以下のように聴き取れた：</p> <p>1)The part of the systems <b>after has been trained</b>, (right) then the text comes in...          と聴こえた。          2)the text comes in <b>passing</b> through a network.          ＊こっちは上手にSSTできています。</p> <p>さて、1)はどう修正すればよい？          ヒント：[t]音は発音されないので聴こえない。          これが理由で、<b>聴き取りにくい代名詞</b>がありましたね。それを挿入。</p>	<p>1)The part of the system <b>is</b>, after <b>it</b> has been trained, (right) then the text comes in...</p> <p>音読練習のhappiness <b>is</b> の[is]は複数形の[-z]と同じように発音しますね。それを応用してsysem<b>s</b>を考えると、ChatGPTと言う一つのシステムの話だから、複数形と言うよりsystem <b>is</b>かsystem <b>has</b>のいずれかにすると良いと思います。</p> <p>2)the text comes in <b>and it</b> passes through a network.          「テキストがやってきて、そしてネットワークを通過する」          通過するのはthe textで、その代名詞<b>it</b>が主語です。</p>
<p>●132 Happiness：先週131の3)の続き</p> <p>どの文字配列の時にスペルと違う音になる？</p> <p>1)ex<b>per</b>ience [エク<b>ス</b>ペ<b>リ</b>エンス]の法則：          superior / inferior / interior</p> <p>2)temper<b>ar</b>ily [テンポ<b>ラ</b>リリー]の法則：          secondary / military / ordinary</p> <p>どの文字配列の時にスペルと違う音になるかパターンを探そう。</p>	<p>●曖昧母音は[*]を使います</p> <p>さあ、どんな文字配列の時だろうか？</p> <p>1)エク<b>ス</b>ペ<b>リ</b>エンス → イクス<b>ピ</b>*<b>リ</b>*エンス なので：          スー<b>ペ</b>リア、イン<b>フ</b>ェリア、イン<b>テ</b>リアではない</p> <p>2)テンポ<b>ラ</b>リリー → テン<b>プ</b>レ<b>ラ</b>リリーなので：          セカン<b>ダ</b>リー、ミ<b>リ</b>タリー、オー<b>ディ</b>ナリーではない</p> <p>1)[<b>エ</b>]が[<b>イ</b>*]の時のスペルは[e]の次に[ri]がくるパターン          [eri]の法則→<b>エ</b>リではなく<b>イ</b>*<b>リ</b></p> <p>2)[<b>ア</b>]が[<b>エ</b>]の時のスペルは[a]の次に[ri / ry]がくるパターン          [ari / ary] の法則→<b>ア</b>リではなく<b>エ</b>リ</p>
<p>●131 Happinessの音読</p> <p>1)アクセントのない語末          dig<b>it</b>al / ple<b>as</b>ant / mean<b>ing</b>ful</p> <p>2)語末が-ing とリエゾン          limit<b>ing</b> or / g<b>iv</b>ing up our</p> <p>3)発音のイメージを変えよう          ex<b>per</b>ience / temp<b>or</b>arily</p>	<p>●曖昧母音は[*]を使います</p> <p>1)tal →[tl]、sant→[znt]、ful→[fl/f*l]          アクセントのない語末は発音しないと覚えておこう。          これだけでも、随分発音の聴こえ方が変わる。</p> <p>2)limit<b>in</b>or ノア / g<b>iv</b>in<b>u</b>pour ナッパワアーと聴こえる          [g]が発音されず[n]と次の単語の母音がリエゾンして全く違う音に聴こえる</p> <p>3)エク<b>ス</b>ペ<b>リ</b>エンス → イクス<b>ピ</b>*<b>リ</b>*エンス          テンポ<b>ラ</b>リリー → テン<b>プ</b>レ<b>ラ</b>リリー</p>